

出来上がった神輿  
＝白山市美川新町



明治時代に作られたと伝わる金沢市近岡町、近岡八幡神社の神輿が、白山市美川新町の北島仏壇店によって修復され、二十一日、納品される。化学塗料が施されて色あせ一部塗料がはく落し、本体にもゆがみ、たわみが出ていたのを

# 美川仏壇の

金沢・近岡八幡神社の神輿

## 15年ぶり、漆で豪華絢爛 技で修復

美川仏壇の技で見違えるばかりとなった。神輿は二十三日からの秋祭りで披露される。

神輿本体は六面体で周囲五・四尺、高さ一・六尺。正面と裏裏には鳥居と観音開き扉が

施され、このほかの四面には阿吽の雲龍の欄間がしつらえてある。近岡町会の発注で十五年ぶりの修復となったが、北島仏壇店の北島昭浩専務によると「せっかくの本格的な作りなのに、表面には化学塗料が施され、十年余りの歳月にも色あせ、所々塗料がはがれ無残な姿だった」という。

北島仏壇店は近岡八幡神社に近い五郎島八幡神社、粟崎八幡神社の神輿修復を手がけ、施主から好評を得た実績があり、近岡町会から発注されたという。

台座部分は黒光りする本漆、欄干などは朱漆を塗り、装飾部分の金箔が相乗効果を発揮し、豪華絢爛の出来栄となった。